

平成25年冬号 Vol.6



ききみみずきん

<発行・編集>喜多方市立図書館
 指定管理者 株式会社 図書館流通センター
 〒966-0822 喜多方市字柳原7503-1
 TEL:0241-22-1855

●<https://tosyokan.city.kitakata.fukushima.jp/>

1月～3月の図書館スケジュール 平日9:30～19:00 土日祝日9:30～17:30

1月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4★
5	6	7	8	9	10	11★
12	13	14	15	16♥	17	18
19	20	21	22	23	24	25✳
26	27	28★	29	30	31	

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8✂
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20♥	21	22✳
24	25	26	27	28		

3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20♥	21	22
23	24	25	26	27	28	29✳
30	31					

※ 休館日(12月28日(土)～1月3日(金))は年末年始休館になります

🏠 おはなしドライブ(11:00～11:30)

♥ ちっちゃなおはなしかい(11:00～11:20)

✳ ユニットおりがみ教室(10:00～11:30)

✂ 生け花講座(10:30～11:30)

★ その他催し物

図書館からのお知らせ

～年末年始の休館のお知らせ～

12月28日(土)～1月3日(金)は年末年始のため、休館となります。
 返却の際は、図書館自動ドア左側にある返却ポストをご利用ください。
 ※AV資料(CD・DVD)・相互貸借の資料は、破損・紛失防止のため、返却ポストへの投函はご遠慮ください。



～本の福袋～ 平成26年1月4日(土)～なくなり次第終了
 昨年好評につき、本の福袋の貸出をいたします。数に限りがあります。
 なくなり次第終了いたします。お早めどうぞ。
 内容は、本が2冊とおまけつき♪新年に新たな本との出会いをお楽しみください。
 ※貸出期間は2週間、福袋1つで2冊分の貸出となります。本は期限内にお返しください。

～第3回絵本原画展～ 平成26年1月11日(土)～1月26日(日)

日本画家・絵本作家である小林豊さんの原画展を開催します。小林豊さんは1970年代から80年代にかけて中東アジアをたびたび訪れ、その体験を元にした絵本で多くの読者を魅了しています。
 今回は『ぼくの家から海がみえた』の原画を展示します。
 原画ならではの魅力と美しさをどうぞご鑑賞ください。



～第4回鉄道展～ 平成26年1月28日(火)～2月11日(火・祝)

お子さんからご年配の方まで幅広い年齢の方に楽しんで頂いている鉄道展も、今回で4回目になりました。
 自然豊かな美しいロケーションで、人々の心を惹きつけてやまない会津の鉄道。
 その鉄道に関する資料や写真パネル、前回好評だったNゲージの展示をおこないます。
 図書館で鉄道の魅力を感じてみませんか？

特集

喜多方の町と図書館の100年

昭和47年(1972)5月22日、現在の場所に図書館館舎が完成しました。
当時の懐かしい写真から、現在までの移り変わりをご紹介します。

移転前の図書館

戦後、公民館図書部として再スタートを切った喜多方の図書館。
昭和38年(1963)から図書部のみ喜多方高校前の
元蚕種試験場に移転。昭和45年7月には公民館から
組織として独立し、喜多方市立図書館となりました。
当時の館舎は木造平屋建。この時点で既に築60年を経っていました。



昭和46年当時の図書館

新館舎完成!

昭和47年(1972)、現在の建物が完成し、5月22日、開館式が
行われました。完成当初は2階建。3階の郷土民俗館は
まだありませんでした。昭和47年5月30日付の福島民報は、
「オープン以来連日満員 従来の2倍越す イス足りず“立ち読み”も
本の寄贈も続々」と、開館当時の賑わいを伝えています。
平成16年(2004)には資料管理を電算化し、
蔵書のコンピューター検索が可能になりました。



昭和47年 貸出室(現在のカウンター付近)の様子

新井圓次氏と新井剛氏

図書館表の駐車場に、「顕彰 新井圓次先生之碑」と刻まれた
石碑があります。「新井圓次先生」とはどんな方だったのでしょ
うか? 慶応元年(1865)、現在もおたづき蔵通りにその名を残す
小田付村に生まれました。教職の傍ら社会教育活動・
郷土史の研究に励み、大正7年(1918)には『耶麻郡誌』(L291-ヤ)を
編纂されました。大正14年(1925)には喜多方史談会を創設。
昭和2年(1927)から昭和18年(1943)まで喜多方通俗図書館に
勤められました。現在の館舎が完成した当時の館長・新井剛氏は
御子息で、同じく郷土史家として活躍されました。
この石碑は、新井圓次氏の業績をたたえて、昭和49年(1974)に
喜多方史談会によって建てられたものです。



図書館表駐車場の石碑



新井剛氏

ふたつの時計

現在カウンター近くで時刻を知らせてくれる鳩時計は、
昭和47年(1972)に現在の館舎完成を記念して、喜多方司書会より
ご寄贈頂いたものです。それから40年、図書館を訪れる人々、
図書館で働く人々をずっと見守ってきました。

そして今年9月、図書館100周年を記念して、喜多方町に
図書館を作られた町長、原平蔵氏の御令孫である原慎一郎氏より、
新たな時計をご寄贈いただきました。入口ロビー、えほんのへや側の
壁に掛けられています。毎時刻に美しいメロディーを響かせるこの時計は、
これからの新しい100年の時を、喜多方の図書館と共に刻むことでしょう。

【参考文献】

- 『喜多方市史 第3巻 近代・現代 通史編Ⅲ』 喜多方市史編纂委員会 2002 (L216-キ)
- 『喜多方市史 第10巻 文化 各論編Ⅲ』 喜多方市史編纂委員会 2002 (L216-キ)
- 『小さい図書館を考える 喜多方市の図書館調査報告』 図書館問題研究会 1976 (L016-ト)



司書会よりご寄贈
頂いた鳩時計



原慎一郎氏よりご寄贈
頂いたからくり時計

新着図書おすすめラインナップ！

毎週木曜日に新刊が入ります
お楽しみに！



『福島原発事故 東電テレビ会議 49時間の記録』

福島原発事故記録チーム／編
岩波書店 2013・9 (543-フ)



東電が隠し続けたテレビ会議映像記録。電源の調達や注水の失敗、迫り来る格納容器爆発の危機、撤退計画の浮上。初期対応を巡る「運命の49時間」に刻まれた東電幹部の肉声をすべて明らかにする。



『村上海賊の娘 上巻・下巻』

和田竜／著
新潮社
2013・10 (F-ワ)

和睦が崩れ、信長に攻めたてられる大坂本願寺。海路からの支援を乞われた毛利は村上海賊に頼ろうとした。その娘、景は海賊働きに明け暮れ、嫁の貰い手のない悍婦で醜女だった…。歴史小説が苦手な方でも読みやすい、著者の腕が光る書。

『ドアノーの贈りもの 田舎の結婚式』

ロベール・ドアノー／著
河出書房新社 2013・9 (748-ド)



時代を超えて世界の人々を魅了しつづける写真家ロベール・ドアノー。第二次世界大戦中に彼が身を寄せた家族の、幸せな結婚式の光景をとらえた写真集。モノクロ写真から、祝福の音が聞こえてきそう！読後ハッピーな気分になります。

こちらも新着！

- * 『経済政策のカラクリ
ーアベノミクスを仕切るのは誰かー』 (332-サ)
榊原英資／著 朝日新聞出版 2013・10
- * 『景観写真論ノート
ー宮本常一のアルバムからー』 (382-カ)
香月洋一郎／編著 筑摩書房 2013・10
- * 『捨てられない服の片づけマジック！』 (593-ヨ)
横森美奈子／著 小学館 2013・10
- * 『11/22/63 上・下』 (933-キ)
スティーヴン・キング／著 文藝春秋 2013・9

喜多方市立図書館100周年記念事業アルバム

としょかんDE マジックパラダイス 平成25年7月27日(土)



浅見彰宏さん講演会 平成25年10月26日(土)



図書館のタベ 音楽と言葉のコラボレーション

平成25年9月28日(土)



終了後、アンケートには「楽しかったー！」の言葉を多くいただきました。これもひとえに皆様のご協力のたまものと深く感謝しております。ありがとうございました！

訂正とお詫び

ききみずきん秋号2面、「喜多方の町と図書館の100年」の文中に誤りがありました。最終行に「翌年新館建設費が計上され」とありますが、正しくは「同年新館建設費が計上され」でした。訂正してお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

街中のちょっと気になる！？あの看板

最近、喜多方市内で見かける、木製の看板
何やら不思議な文様が描かれています...

こんな看板
見たことある？



金忠(店内)／おたづき蔵通り

◎ 蔵とラーメンだけじゃない！“漢字のまち” 喜多方

最近、街中でみかける木製の看板。そこに書かれているのは漢字のルーツといわれる約3000年前の古代文字です。

看板のある店舗や施設の特徴を示す1文字の古代漢字。書いたのは、市内で「樂篆(らくてん)工房」を主宰し「樂篆家」という肩書きを持つ高橋 政巳(たかはし まさみ)氏です。

高橋 政巳氏の存在がきっかけで、「喜多方を漢字のまちにする会」という市民団体が生まれ2011年から喜多方市を漢字の町にしようという取り組みが始まりました。

その活動の中から古代文字の看板は生まれたのです。

今では、喜多方市内の120軒以上の店舗や施設に、古代文字の看板が掲げられています。

街で看板を
探してみよう！



D 古代文字の看板は、どこに行けば見れるの？

駅前通り、ふれあい通り、おたづき蔵通りを中心とした店舗。

その他、JR喜多方駅や、もちろん喜多方市立図書館にもあります。

喜多方の街をお散歩しながら看板を探すのも楽しいかも？

そして、古代文字の意味や由来についてお店の方にたずねてみてください。

古代文字や漢字の奥深い世界にきっと魅了されるはず！



おたづき蔵通り

～図書館のおすすめ！漢字の世界を探求するための本～

『感じの漢字』 高橋 政巳／書&文 扶桑社 2003・4 (728-タ)

『感じる漢字』 高橋 政巳／書&文 扶桑社 2006・5 (L728-タ)

『常用字解』 白川 静／著 平凡社 2003. 12 (813-シ)



喜多方市立図書館

図書館の看板の文字は「読」

多くの言葉を集め、神の言葉である祝詞を読むという意味

協力／ 喜多方市観光交流課

古代文字の看板についてのお問い合わせ 喜多方観光協会 TEL.0241-24-5200

図書館ここだけの話

今年1年を振り返る時期、新年の抱負をたてる時期が、またまたやってきました。皆さんにとって、平成25年はどんな年でしたか？そして、新しい年、平成26年はどんな年にしたいですか？人間は、たくさんの経験を積んで1年ごと1歳ずつ歳を積み重ねていきます。図書館も1年間でさまざまな成長をします。蔵書が増えたり、利用者の方が増えたりなどなど。今までも、これからも喜多方市立図書館は皆さんと共に成長していきます。(館長)

【編集後記】 * * * * *

毎週日曜日(11:00～11:30)には、絵本の部屋で「おはなしドライブ」を開催しています。元気な子どもたちの笑顔を見ると、読む側もとてもうれしくなります。子どもと本の架け橋になれるよう、さらに精進していきます。(E・Y)

毎月テーマが変わる特集展示コーナーは、今回はどんな本が並ぶだろう？と、図書館スタッフも楽しみにしている特集です。みなさんも新しい世界への扉を開いてみませんか？ぜひチェックしてください！(A・O)

